

「日田市陸上競技場の第 2 種公認維持の必要性について」

○ 8 番（中島章二） [登壇]

通告に基づき、市政に対する一般質問を行います。

「日田市陸上競技場の第 2 種公認維持の必要性について」です。

3 項目め、「日田市陸上競技場の第 2 種公認維持の必要について」質問いたします。

令和 8 年度日田市、令和 8 年度市政執行方針では、スポーツ、レクリエーションの推進については、第 2 期日田市スポーツ推進後期計画に基づき、スポーツの推進を図り、市民のスポーツ実施率向上などに努めていく。市外からの参加を募るスポーツイベントの開催に加え、スポーツ合宿の誘致、合宿助成を通じて交流人口の拡大を図り、スポーツツーリズムを推進していくとあります。

今回質問する日田市陸上競技場は、平成 1 0 年 4 月にオープンして以来、陸上競技の拠点として、公認の陸上記録会、J F L 公式戦や多くの合宿等が開催されてきています。この間、日本陸上競技連盟の第 2 種公認陸上競技場としての機能を維持しています。

そこでお伺いいたします。この陸上競技場で開催されてきた過去 5 年間の陸上競技大会や球技大会等の開催状況をお伺いします。また、第 2 種公認を受けていることで開催できた大会もあると思いますが、第 2 種公認競技場であることの効果をどのように評価しているのか伺います。

次に、市政執行方針にもあるスポーツツーリズムの観点、そして競技力向上の観点から、第 2 種公認競技場である必要性について、どのように考えているのかお伺いいたします。

以上で、壇上の質問を終わります。

○議長（三苫 誠） 文化スポーツ観光部長。

○文化スポーツ観光部長（瀬口英隆） [登壇]

私からは、8 番議員お尋ねの日田市陸上競技場の第 2 種公認維持の必要性についてお答えします。

初めに、1 点目の過去 5 年間の陸上競技大会等の開催状況についてでございます。

日田市陸上競技場は、議員御案内のとおり、平成 1 0 年に開設され、本格的なトラックやフィールド、メインスタンド、芝生スタンドを備えた、日本陸上競技連盟の第 2 種公認競技場でございます。

この競技場における陸上競技大会におきましては、日田市陸上記録会が毎年 4 回から 5 回開催されるほか、市民体育大会と日田市中学校総合体育大会が毎年 1 回開催されております。

球技では、サッカーにおきまして、日田市中体連総体や日田市中学校新人体育大会が毎年 1 回開催されるほか、ヴェルスパ大分の J F L 公式戦が年間 2 試合から 3 試合開催されております。

また、ラグビーにおきましては、市民体育大会と県内外の小学生を対象としたラグビーフェスティバルが毎年 1 回開催されております。

このほか、市外からの参加者も多い水郷ひたチャレンジウォークや天領日田ひなまつり健康マラソン大会、市内の小学生を対象とした日田市少年少女交流駅伝大会が陸上競技場をスタート、ゴール地点として毎年 1 回開催されております。

さらに、特筆すべき実績といたしましては、令和 3 年度にラグビー男女日本代表チーム及びカメ

ルーン陸上ナショナルチームの合宿が、令和4年度にはラグビー男子日本代表チームの合宿が当競技場において開催されております。

次に、2点目の第2種公認競技場であることの効果と評価についてでございます。

日本陸上競技連盟の公認基準は、第1種から第4種に分類されており、その仕様の主な違いは、トラックのレーン数と舗装仕様でございます。レーン数につきましては、第1種及び2種は8または9レーン、第3種は直走路が8レーン、曲走路が6レーン以上、第4種は直走路が6レーン、曲走路が4レーン以上と規定されております。

トラックの舗装につきましては、第1種から第3種までが全天候型の舗装、いわゆる具体的にはウレタン舗装などとされ、第4種は全天候型舗装が望ましいものの、土質でも可と規定されております。

また、開催可能な大会といたしましては、第1種が全国規模、国際規模の主要大会、第2種が都道府県規模の主要大会、第3種が都道府県規模の一般的な大会や、高校、一般の地域大会、第4種が市区町村規模の大会と規定されております。

本市競技場が日本陸上競技連盟の第2種公認を取得している効果といたしましては、全国大会の標準記録突破につながる正式な記録を残せる大会が開催できることに加え、競技者が公式戦と同様の環境やモチベーションで練習に取り組めることが上げられます。

しかしながら、現状を鑑みますと、都道府県規模の主要な大会の開催実績はなく、現在開催されている記録会や市民体育大会などは、第3種公認であっても支障なく開催可能であることから、現時点におきましては、第2種公認競技場としての直接的な効果が十分に発揮されているとは言い難い面もあると評価しているところでございます。

最後に、3点目の競技力向上及びスポーツツーリズムの観点からの考え方についてでございます。

まず、競技力向上の観点から見ますと、こうした本格的な陸上競技場が市内に整備されていることが日頃の練習の基盤となっており、大分県民スポーツ大会の陸上競技において、本市チームが上位の成績を残しているほか、地元高校出身の選手が箱根駅伝に出場するなど、地元選手の競技力向上に大きく寄与しているものと考えております。

次に、スポーツツーリズムの観点から見ますと、本来第2種公認という企画は、全国規模や広域的な大会、あるいはトップチームの合宿等を誘致する上で大きな強みとなるものでございます。

しかしながら、これまでそのメリットを十分に生かし切れていなかったことも事実であり、スポーツ合宿の誘致活動を強化していく必要があると考えております。そのため、現在、県を通じて大学陸上競技チームの合宿開催に向けた調整を進めているところです。

その上で、第2種公認を維持していくことの必要性につきましては、今までの実績だけでなく、こうした競技力向上やスポーツツーリズムにおけるポテンシャルを十分に勘案し、今後必要となる更新費用などの財政負担をしっかりと見極め、本市にとって最も適した競技場の在り方を総合的に検証してまいりたいと考えております。

私からは以上でございます。

○議長（三苦 誠） 8番 中島議員。

○8番（中島章二） それでは、再質問に移らせていただきます。

まず、3項目めで質問させていただきました、日田市陸上競技場の第2種公認維持の必要性についてから再質問いたします。

まず、本市におきまして、スポーツを通してのスポーツ合宿や交流人口の拡大、地域経済への波及効果をどのように分析しているのか、お伺いいたします。

○議長（三苫 誠） 文化スポーツ観光部長。

○文化スポーツ観光部長（瀬口英隆） スポーツ合宿や交流人口の拡大、地域経済の波及効果をどのように分析しているのかということでございますけれども、市では、令和5年度から市と県が連携して実施しておりますスポーツ合宿誘致事業におきまして、本市では、令和5年度に剣道を2件、空手道を1件の合計3件、令和6年度に相撲1件、令和7年度に相撲1件、今年度にはバレーボール2件の合宿が行われております。

いずれの合宿におきましても、地域の小中学生や高校生に対する技術指導及び交流試合の開催に加え、練習や練習試合を公開する交流活動を行っております。中でもバレーボールの交流事業に参加した中学生チームの保護者からは、代表チームから直接指導を受けたことで、子どものバレーボールに対する取組方が変わったとの声をいただいております。トップ選手との交流は、競技力の向上のみならず、競技に取り組む姿勢にも大きな変化を与えているものと捉えております。

一方、これまで当陸上競技場での合宿実績は、実業団2者の陸上競技チームとなっております、特段の交流活動は行われていないものの、参加した選手やスタッフの宿泊、飲食など、そのほとんどが日田市内で消費されております。

また、競技種目は異なりますが、今年度開催されましたバレーボール女子日本代表合宿におきましては関心度が高く、多数のメディアに取り上げられた影響もありまして、県外からも多く観覧者が訪れました。

このように、合宿に参加した選手やスタッフだけでなく、観覧を目的に日田市に訪れた方を含め、スポーツ合宿全般を通じて、交流人口の拡大や地域経済への確かな寄与があったものと分析しているところでございます。

○議長（三苫 誠） 8番 中島議員。

○8番（中島章二） スポーツ合宿について、バレーボールの合宿、私も行けるときは何度か行かせていただきました。子どもたちの指導していただいたときにも見学させていただきましたけど、非常に分かりやすく説明していただいたり、生で練習風景を見られるということで、中学生たちの本当に部活動のほうへ、これからどう取り組もうかということにモチベーションが上がったんじゃないかなと感じているところでございます。

教育福祉委員会でも以前から、スポーツツーリズムについては、しっかりとやっていただきたいということを申し上げてきているところでございますが、今日質問した陸上競技場については、なかなか有効的な活用ができていないということで、これまで2種を取ってきているということ、全国的に見ても89か所ぐらいしかない、大分県下では2か所しかない2種競技場でございます。非常に大切な施設であると思ひますし、有効活用ができるんじゃないかと。

今夕方、練習場を見に行くと、競技場見に行くと、小学生から中学生、高校生、一般の方、たくさんの方が練習して、大会に向けてということで頑張ってもらっています。つながりもここで出来上がっていますし、全国大会につながる選手たちもできてきているということ。

こういったことをしっかり考えて、これまで日田市陸協のほうで行ってきた事業が多いとかと思うんですけど、これは日田市としてもしっかり有効活用すべき施設であって、この２種を持っていることを大切な宝物だと思っていただいて、ここを有効活用していただきたい。部長の答弁でも、これからのことを言っていただきましたけど、これについてはしっかりと有効活用していただきたいということを強く感じているところでございます。

そこで、第２種公認であることによって得られます大会実績や、それから利用者数等、交流人口及び経済効果と公認維持に要する費用対効果について、どのように評価しているのか、お伺いいたします。

○議長（三苦 誠） 文化スポーツ観光部長。

○文化スポーツ観光部長（瀬口英隆） まず、大会実績と利用者数につきましては、陸上競技関係では陸上記録会や市民体育大会、日田市中学校総合体育大会を開催をしております。

令和７年度の陸上競技場全体の延べ利用者数は２万８,８２９人のうち陸上関係が１万９,８５９人、球技関係が３,６５０人、学校利用や市のイベントなどのその他が５,３２０人となっております。

なお、陸上競技場における過去３年間の１回当たりの平均参加者数は３７４人であり、その９０％以上が大分県及び福岡県からの参加者となっております。

次に、交流人口及び経済効果につきましては、参加者同士、あるいは参加者と市民との間での交流は深まっているものと考えておりますけれども、現状として第２種公認競技場であることによる直接的な経済効果は、十分に発揮されていると言い難いというのが実情でございます。

次に、維持に要する費用につきましては、陸上競技場の公認資格は５年ごとに更新する必要がありまして、これまでの更新実績を見ますと、平成２９年度が２億４,０００万円、これはトラックのウレタン舗装の全面的な更新をしております。令和４年度が４,７００万円となっております。

次の令和９年度の更新時には、前回と同程度の費用を見込んでおりますけれども、その５年後となる令和１４年度の更新時には、トラックのウレタン舗装の全面的な更新が必要になるということが予想されております。

近年の物価上昇の影響も加味いたしますと、平成２９年度の２億４,０００万円を上回る費用となることが見込まれております。

最後に、費用対効果の評価でございますけれども、第２種公認であることによって得られる効果と維持に要する費用との費用対効果につきましては、現時点では交流人口や経済効果を客観的に評価する具体的なデータが不足しておりまして、明確に算出、評価することは困難であると考えております。

また、現在開催されている陸上競技会や市民体育大会などの各種陸上競技大会につきましては、実質的には第３種公認であっても、支障なく開催が可能な状況にあります。第２種とその他の公認区分の使用を維持するための費用差につきましては、現時点で具体的な金額を把握できておりませんが、今年度日本陸上競技連盟の事前指導を受けておりまして、その過程の中で業者から費用差が分かる見積りを頂く予定としております。

今後は、この事前指導を通じて、第２種とその他の公認区分の詳細な費用比較を進めるとともに、競技力向上やスポーツツーリズムにおけるポテンシャルを十分に勘案しまして、市の財政状況等含

めて総合的な検討を行う中で、第2種公認を維持する必要性について判断してまいりたいと考えております。

○議長（三苫 誠） 8番 中島議員。

○8番（中島章二） 今答弁の中で、今陸上記録会行っていますけど、その大会が3種でも支障なく開催できるってことを部長は言ったかと思いますが、陸上記録会の中でも、障害種目を行っている大会がございます。2種と3種を比較したときに、3種だと障害のコースは要らないということもございますので、3種だから支障なく開催できるっていう部分につきましては、これはちょっと違うんじゃないかなと思いますし、記録会、陸上記録会についても現在374人、平均ということでしたけど、大会の中では600人以上は参加している、実業団選手も来ている大会等ございます。北部九州の選手たちが集まってきているような大会が毎年実施されてきています。

こういったところで、これもやはり2種を持っているから集まってくる選手たちだと私は感じているところがございますので、この部分につきましても、今開催している陸協さんとかとしっかり協議を詰めていただいて、検討する段階でしっかり協議を進めていただきたいと思っているところでございます。

先ほども申しましたが、第2種と第3種で支障なく開催できるとの答弁の部分で、今申し上げたところで、ちょっと確認をしていただきたいということ、お願いいたします。

実際、県外からも多くの選手、小学生から中学生、高校生、大学生、一般、そして実業団選手も出場している大会を行っています。この大会自体を選手はモチベーションとして、陸上競技場では、先ほど申し上げました小学生、中学生、高校生、一般の方たちは、しっかり陸上競技場で練習に取り組んでいます。

答弁にもありましたが、全国で戦う選手も輩出してきているのも、この2種競技場があることでの成果ではないでしょうか。また、スポーツツーリズムの観点からも、そしてスポーツを通しての育成も寄与して、競技力の向上の育成も寄与しているものと思います。

これまで日田市は、この2種競技場の有効活用がしっかりとできていないという御答弁がございました。これは大きな課題だと思います。この2種公認を維持していくことで、大きな大会開催や合宿誘致、特に合宿誘致については、非常に有利な展開が期待される。日田市の立地条件見ても、いろんなところから集まりやすいという立地条件ではないかと思っています。

2種公認であるということで、まず合宿候補地として、まず上げていくということ、県のほうからも紹介があるんじゃないかと思っています。日田市陸上競技場は第2種公認を維持することは、市民スポーツの振興だけでなく、競技大会誘致、合宿受入れ、公認競技会の開催により、交流人口の拡大に寄与することは明らかではないかと私は考えています。

今後、この施設を活用し、市主催また共催でもいいと思いますけど、市が行うスポーツ大会の開催、スポーツツーリズムの強化を図りまして、現在、大分県に2か所しかない第2種公認陸上競技場の一つとして、今後も日田市陸上競技場については、第2種公認を維持していただきたいと要望させていただきますが、御答弁があればお伺いしたいんですが。

○議長（三苫 誠） 文化スポーツ観光部長。

○文化スポーツ観光部長（瀬口英隆） まず、2種、3種でも可能ではないかというようなことで私のほう、お伝えした部分、障害種目も含めてという部分につきましては、しっかりとこちらのほうでも確

認をさせていただきたいと思います。

また、2種公認ということで登壇場でも申し上げましたけれども、全国的な規模の大会であったり、トップチームの合宿を誘致できるというようなことございます。大きな強みがございますので、そういったことでスポーツ合宿の誘致に力を入れまして、交流人口の拡大や確かな経済効果を得られるように、しっかりと実績を上げるような取組を充実してまいりたいというふうに考えております。